スタンフォード大学・名誉教授

ウィリアム・ティラー博士　（学者・筆者）

この４００年のあいだ、科学の暗黙の仮定として、人間の意図（意識）は物理的な実態に影響を及ぼす事は無いとされてきた。しかし現代の世界では、コンディションさえ整えばその仮定が間違っている事を、私たちが十数年間行ってきた研究と実験が示している。我々人類は、我々自身が思っている以上の存在だ。私たちのチームはその証拠を広げていく。

【大学での職歴】

スタンフォード大学　材料工学名誉教授（現在）
スタンフォード大学・学部長（１９６６－１９７１）
スタンフォード大学・教授（１９６４－１９９２

【著書】

２５０以上の科学論文、著書に「意識的な創造行為」、「科学と人類の変革」、「バイブレーショナル・メディスン」（リチャード・ガーバー著、上野圭一監訳、日本教文社）の序文。同書の中には、「ティラー／アインシュタイン・モデル」が提示されています。

2月4日　アリゾナ州スコットデール
ウィリアム・ティラー博士とのブランチミーティング

参加者：ウィリアム・ティラー博士、野村修之、亀井シモン、亀井マシュウ

概要：２０１４年2月4日の朝１０時、スコットデールの滞在先のホテル（ハイヤット）内ロビーにて集合。
そのまま同ホテルのレストランにて、上記参加者でブランチミーティングを開始。２時間ほどの会談後に解散。

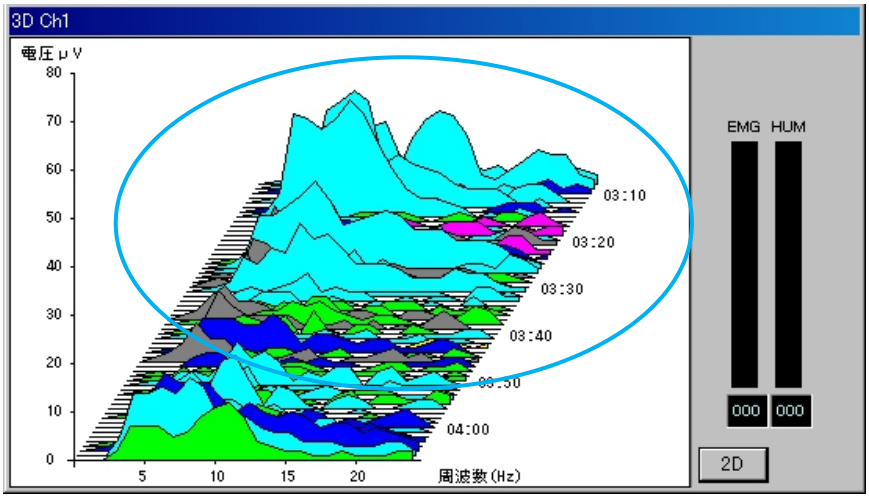
会談のメモ：

1）ウィリアム・ティラー博士はダカッパの研究に大変興味があると発言。
2）博士により、ダカッパの効果を科学的に証明するテストの方法を提案、
　　また、博士は会談後に、このテストの提案は会談そのものの収穫となりうると仄めかす。
3）二番の提案はオーソドックスサイエンス（現代の科学）での証明方法で、比較的安易なテストであるとした。
4）科学で証明できない分野での様々なテストは、ウィリアム・ティラー博士本人が、自分を第一人者と語った。
5）博士が行っている様々な研究の中で、活水装置およびその他の製品の試用に意欲的であった。
6）とくに自閉症の研究に関して、ヘキサゴンのパワーを思量する事を快諾いただけた。

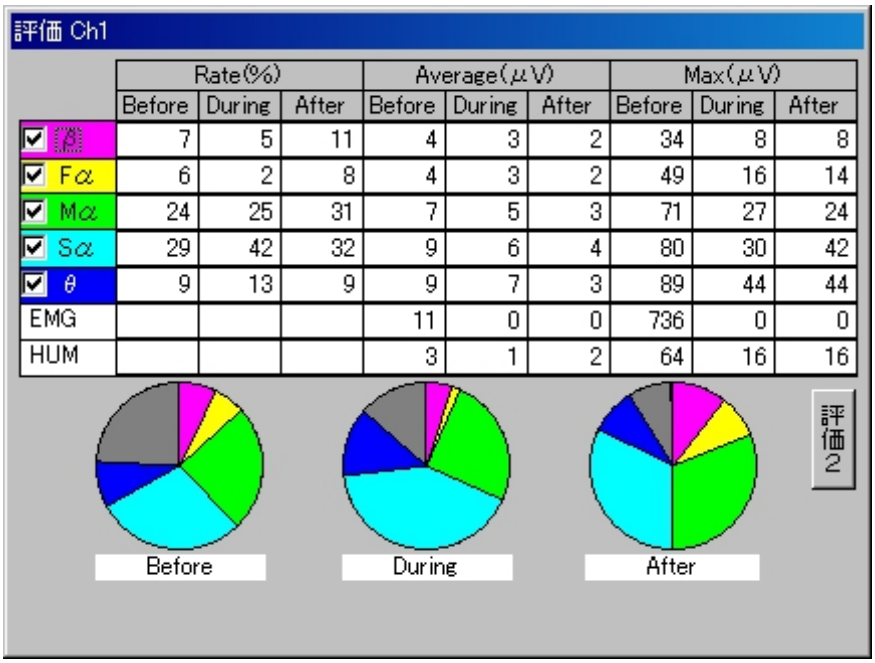
今後の予定：
推薦状を書いていただく。（推薦状の公開レベルの確認が必要）
ウィリアム・ティラー博士の研究ラボに、ダカッパの導入をお願いする。
博士の独自研究の一環として、さらには、ダカッパ効果を単体の研究対象としていただけるか打診。

2013 年 6 月 17 日

脳波測定結果



持った瞬間（丸印部分）にＳα波が多量に発生したことが見て取れる。



	Rate(%)			Average(μV)			Max(μV)		
	Before	During	After	Before	During	After	Before	During	After
β	7	5	11	4	3	2	34	8	8
Fα	6	2	8	4	3	2	49	16	14
Mα	24	25	31	7	5	3	71	27	24
Sα	29	42	32	9	6	4	80	30	42
θ	9	13	9	9	7	3	89	44	44
EMG				11	0	0	736	0	0
HUM				3	1	2	64	16	16

	使用前	使用時
β波	7	１１
Ｆα波	6	8
Ｍα波	２４	３１
Ｓα波	２９	３２
θ波	9	9